

環境保全対策の効果の検証

■ヨシ原再生事業

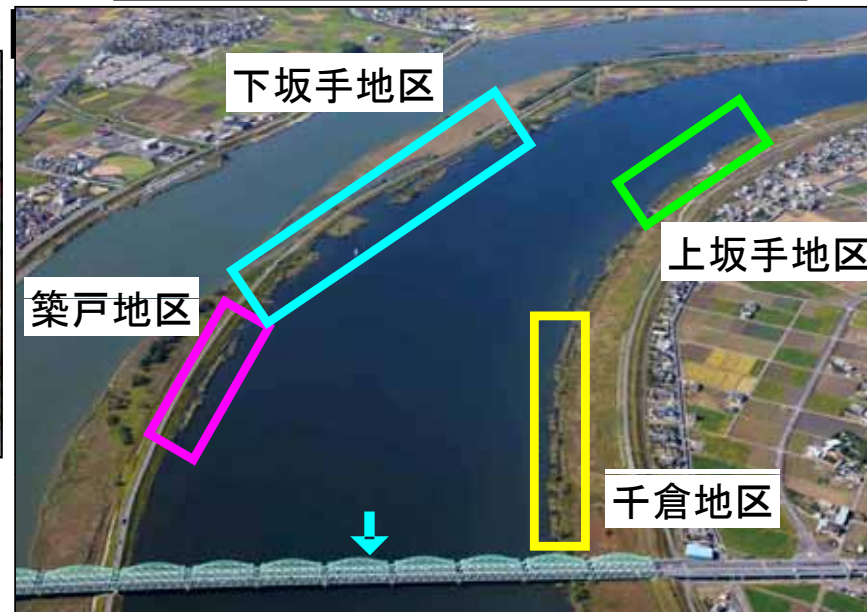
- ヨシ原再生の目的:平成10年度より、洪水対策のためのしゅんせつや高水敷・低水護岸整備等で減少したヨシ原再生に取り組んでいる。

ヨシ原再生事業実施前(平成10年9月撮影)



上之輪地区:右岸6.0~7.0km、築戸地区:右岸8.3~8.7km、千倉地区:左岸8.0~8.9km、下坂手地区:右岸8.6~10.0km、上坂手地区:左岸9.5~10.2km

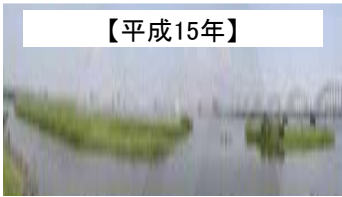



現在の状況(平成24年10月撮影)



環境保全対策の効果の検証(1/2)

■ヨシ原再生事業

- 護岸前面に盛土、土のう、捨石、粗朶沈床、消波工(木柵)等によりヨシ等の抽水植物が生育可能な植生基盤を造成した。
- ヨシ原は、造成後概ね順調な生育がみられた。
- ヨシ原への依存性が強いオオヨシキリ、カヤネズミやトンボ類が、再生したヨシ原やその周辺で継続的に確認されていることから、再生したヨシ原は、鳥類、哺乳類、トンボ類の生息場として機能しつつあると考えられる。
- 基盤面の比高が高い場所では、木本群落やセイタカアワダチソウ群落の侵入が見られる。

地点	施工後1年目	施工後3年目	経年変化
上之輪地区	 <p>【平成15年】</p>	 <p>【平成22年(施工後8年目)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 平成10～14年度に施工。 • 施工後、島状の施工形状は維持されている。 • 施工後、オオヨシキリやカヤネズミ、トンボ類が継続的に確認されている。
築戸地区	 <p>【平成21年】</p>	 <p>【平成23年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 平成20年度に施工。 • ヨシの被度面積は施工1年目から2年目にかけて増加傾向を示す。 • 施工後、カヤネズミやオオヨシキリが確認されるようになった。また、トンボ類が継続的に確認されている。

環境保全対策の効果の検証 (2/2)

■ヨシ原再生事業

地点	施工後1年目	施工後3年目	経年変化
千倉地区	<p>【平成22年】</p>	<p>【平成24年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成20～21年度に施工。 ヨシの被度面積は施工1年目から2年目にかけて増加傾向を示す。 施工後、カヤネズミやオオヨシキリ、トンボ類が継続的に確認されている。
下坂手地区	<p>【平成16年】</p>	<p>【平成25年(施工後10年目)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度に施工。 施工から10年が経過し、ヨシの被度は水際域を中心に増加しているが、群落内部では木本群落やセイタカアワダチソウ群落の侵入がみられる。 カヤネズミやオオヨシキリ、トンボ類は継続的に確認されている。
上坂手地区	<p>【平成22年】</p>	<p>【平成24年】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度に施工。 ヨシの被度面積は施工1年目から2年目にかけて増加傾向を示す。 カヤネズミやオオヨシキリ、トンボ類は確認されている。

環境保全対策の効果の検証

■ヨシ原再生事業

- 平成16年から長良川右岸10km付近の河川敷において、木曾三川下流域で減少したヨシ原を再生するため、流域住民を含めたNPOが、毎回約1,000株のヨシ苗を植え、その成長を見守りながらヨシ原再生に取り組んでいる。



平成26年4月27日(日)に実施されたヨシ植えの様子